

厚生労働科学研究費補助金
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業))
総合分担研究報告書

LGBT, 特に性同一性障害/性別違和の子どもや関係者への
情報提供についての研究

研究分担者 中塚 幹也 (岡山大学大学院保健学研究科)

研究要旨:

性同一性障害当事者の約 9 割は子どもの頃に、自身の性別違和感を周囲に告白することができず、その約 6 割がそのことを後悔している。このため、教職員や保護者に適切な情報を提供し、差別や偏見をなくし、言い出しやすい環境を作ること、また、医療につなげる体制を確立する必要がある。また、LGBT の子どもが将来のライフプランを考えることができるような情報を提供することも重要である。

2018 年の 1906 名の教員への調査では、性同一性障害/性別違和の子どもと実際に接した教員は 16.4%、性別違和感を持つと思われる子どもと接点があった教員も 34.0%と高率であった。体育及び保健体育で別メニューを設定すること (41.1%)、受容していない保護者に理解を求めること (38.5%) などは困難との回答が高率であった。自殺未遂 (78.6%)、自殺念慮 (76.8%)、うつ (76.0%)、二次性徴の悩み (72.3%)、不登校 (71.2%)、悩んでいるが性同一性障害かどうかわからない場合 (66.6%) は医療と連携すべきと回答していたが、医療との連携が「困難」「どちらかといえば困難」との回答は 59.4%であった。

2019 年の教員 1100 名への調査では、教員として性的マイノリティ (LGBT) の児童生徒と関わったことが「あると思う」39.4%、「実際に知っている」17.8%と高率であった。しかし、2015 年の文部科学省からの通知を知らない教員は 4 割強と認知度は低かった。「LGBT の児童生徒に対するいじめを見たこと」が「以前あった」10.0%、「今もあるかもしれない」14.7%であった。児童生徒に対して LGBT を話題にしたことが「ある」との回答は 33.4%にとどまっていた。LGBT の児童生徒がいた場合の相談相手として、「養護教諭」66.7%、「学校カウンセラー」63.2%が高率であり、支援を期待する相手も「養護教諭」79.0%が高率であった。「学校と医療機関が連携すべきだと思う状態」については、「自殺未遂」80.8%、「不登校」78.5%、「自殺願望」78.4%、「うつ」78.3%などが高率であった。

2020 年の教員 761 名への調査では、LGBT 教育を始める時期は「小学低学年」30.6%、「小学高学年」42.8%であった。ライフプランを立てることについて、LGBT の子どもの場合は「やや困難」49.4%、「困難」10.5%との回答であり、LGBT 以外の子どもの場合の「やや困難」28.0%、「困難」5.0%に比較して有意に高率であった。LGBT の子どもがライフプランを立てるのに必要なこととしては「子ども向けの本」62.0%、「保護者の理解」60.4%、「保護者向けの本」57.3%などが高率であった。

学校教員、特に養護教諭に対して、性の多様性、LGBT に関するさらなる情報提供を行うための教材を作成した。LGBT の子どもへのライフプラン教育、性教育などを行うための資料も作成した。このような教材を教員へ提供するとともに、小学校、中学校、高校などで、児童・生徒に対して学校での講演会などを実施した。

A. 研究目的

性を決定する要素には、身体の性、性自認 (心の性)、性的指向 (好きになる性)、性役割などがあり、これらの要素のうちのいずれかが多数派と異なる人々は「性的マイノリティ」、あるいは、

「LGBT」(性的指向において少数派である L (レズビアン)、G (ゲイ)、B (バイセクシュアル) に、性自認において少数派である T (トランスジェンダー) を加えたという言葉)。また、性的指向 (Sexual Orientation) と性自認 (Gender

Identity)の頭文字を合わせた SOGI という言葉もある。LGBT 当事者は約 8% (13 人に 1 人)とされ、自殺企図、不登校、うつなどの発生率が高い。

2015 年、文部科学省は「性同一性障害の児童生徒に対するきめ細かな対応を」と通知し、具体的な対応例を述べ、「教員研修」「チームでの支援」「医療機関等との連携」の重要性を指摘した。また、性同一性障害のみではなく、性的マイノリティの子ども全体への配慮についても初めて言及した。しかし、性同一性障害当事者の約 9 割は子どもの頃に、自身の性別違和感を周囲に告白することができず、その約 6 割がそのことを後悔していた。

特に、思春期は二次性徴による身体の変化を伴うため自殺念慮や不登校が発生しやすくなるが、対応されていないことが多い。医療とつながることができれば、二次性徴抑制療法、精神支援などの緊急対応が可能になる。

このような性同一性障害/性別違和の子どもへの支援のためには、当事者、その周囲の子ども、そして、教職員や保護者に適切な情報を提供し、差別や偏見をなくし、言い出しやすい環境を作ること、また、biopsychosocial な多角的な視点を備えた医療保健体制を確立し、医療的な対応につなげる必要がある。

また、性の在り方が多様化していく中で子どもを持ちたいと希望する LGBT のカップルは増えている。LGBT のカップルが生殖医療を使って子どもを得るには、性別適合手術を受ける前に自身の精子や卵子を凍結保存して使ったり、第三者から提供してもらったりする必要がある。しかし、そのような情報を持たないまま、ホルモン療法や性器の手術を受けている人は多い。

このことを考えると LGBT ではない子どもたちと同様、あるいはそれ以上に LGBT の子どもたちがライフプランを立てて行動や決断をすることは重要である。そのために必要な教材や支援、また、法や制度を含め社会において何が必要である

かについても検討する必要がある。

B. 研究方法

教職員や大学生を対象とした実態調査、意識調査を実施した。また、研究者が過去に行ってきた日本人の性同一性障害当事者を対象とした心理的、身体的研究の結果、意識調査の結果などをまとめ、情報提供のためのデータ集を作成した。その一部を、子ども向けの情報提供の本として出版したり、教職員や医療・保健関係者向けの資料として提供したりした。

(倫理面への配慮)

各種のデータ収集は、所属機関の倫理審査委員会（審査整理番号：U20-03 など）、利益相反（conflict of interest : COI）委員会の承認のもと行った。

C. 研究結果

<調査 1>

2018 年 7 月までに開催された各種研修会に参加した教員のうち、同意の得られた 1906 名を対象とした研究では、2015 年の文部科学省の通知を「知らない」との回答は 37.4%であった。教員になってから、性同一性障害/性別違和の子どもと実際に接した教員は 16.4%、性別違和感を持つと思われる子どもと接点があった教員も 34.0%と高率であった。

学校で対応困難と考えることとして、体育及び保健体育で別メニューを設定すること（41.1%）、受容していない保護者に理解を求めること（38.5%）などが高率に挙げられた。通知を知らない教員は、水泳や修学旅行への対応を「不要」あるいは「困難」と考える傾向にあった。

性同一性障害の医療的支援である二次性徴抑制療法の認知度は 19.9%と低率であった。医療施設と連携すべきと思う子どもの状態は、自殺未遂（78.6%）、自殺念慮（76.8%）、うつ（76.0%）、二

次性徴の悩み（72.3%）、不登校（71.2%）、悩んでいるが性同一性障害かどうかわからない場合（66.6%）であった。性別違和感を持つ子どもに接した教員のうち「医療との連携の経験がある」のは14.4%であった。医療との連携が「困難」「どちらかといえば困難」との回答は59.4%であり、特に養護教諭や20代の教員は連携を困難に感じる傾向にあった。その理由として、専門医が近隣にいない（19.4%）や、近隣にいるか不明（11.1%）などが高率であった。

専門医への相談の際に必要なことは、本人の希望（74.9%）、保護者の同意（65.0%）が高率であった。専門医に期待することは、教員研修の講師（69.3%）、当事者の保護者への説明（69.2%）などが高率であった。

<調査2>

2019年、性的マイノリティに関する研修会に参加した教員1100名を対象として、無記名の自己記入式質問紙による質問紙調査を行った。

「LGBTに関して生徒に説明できる言葉を教えてください」という問いに対して、「性同一性障害」との回答は76.2%、「レズビアン」との回答は67.2%、「ゲイ」との回答は67.1%、「同性愛」との回答は64.4%と高率であった。しかし、「アライ」との回答は2.7%と低率であった。

2015年の文部科学省の通知を「知らない」との回答は43.5%、「報道で知った」との回答は14.7%、「知り合いから聞いた」との回答は4.7%、「読んだ」との回答は32.0%、「その他」との回答は2.5%であった。

教員としてLGBTの児童生徒と関わったことが「あると思う」との回答は39.4%、「実際に知っている」との回答は17.8%であった。接した児童生徒に関しては、「トランス女性」との回答は59.9%、「トランス男性」との回答は53.6%と高率であった。

「当事者に悩んでいる様子はあった」との回答は41.0%、「わからない」との回答は42.5%であっ

た。「周囲の児童生徒とのトラブルや悩みはあった」との回答は33.9%であり、このうち「どのようなトラブルか」という問いに対して「からかい」が42.6%と高率であった。

「今までにLGBTの児童生徒に対するいじめを見たことがあるか」に対して、「今はないが以前あった」との回答は10.0%、「今もあるかもしれない」との回答は14.7%、「今もある」との回答は0.3%であった。

「性の多様性等について、いつから教えるべきか」に対して、約5割が「小学校高学年」と回答した。役職別に比較すると、「小学校低学年」との回答は、養護教諭が校長・教頭に対して有意に高率であった。

しかし、児童生徒に対してLGBTを話題にしたことが「ある」との回答は33.4%にとどまっており、そのうち「肯定的な話題」との回答は92.0%、「否定的な話題」との回答は7.1%であった。

「LGBTの児童生徒がいた場合、誰に相談するか」という問いに対して「養護教諭」との回答は66.7%、「学校カウンセラー」との回答は63.2%と高率であった。「性的マイノリティの児童生徒がいた場合、誰からの支援を期待するか」に対しては「養護教諭」79.0%が最も高率であった。

「学校と医療機関が連携すべきだと思う状態」については、「自殺未遂」80.8%、「不登校」78.5%、「自殺願望」78.4%、「うつ」78.3%などが高率であった。

二次性徴抑制療法を「知っている」との回答は15.6%であり、養護教諭が校長・教頭に対して有意に高率であった。二次性徴抑制療法は「必要である」との回答は88.3%であり、やはり、養護教諭が校長・教頭や一般の教と比較して有意に高率であった。しかし、教員の中には「二次性徴抑制療法をできれば行ってほしくない」との回答も20.5%に見られた。

「学校と医療機関との連携は困難である」との回答は22.9%、「少し困難」との回答は57.9%であ

った。

<調査3>

2020年、教員761名（管理職は6.3%、人権教育担当は9.9%、養護教諭は24.8%、一般教員は17.0%、保健主事は10.6%）への調査では、性同一性障害について学習したことがある教員は78.4%であった。学習した時期は「教員になってから」との回答が最も高率で68.5%、「大学」との回答が23.8%であった。

2015年に渋谷区で成立した、同性パートナーシップ制度を「知っている」との回答は79.4%であった。「どう思うか」との問いについて、「当然」との回答は58.7%、「やむをえない」との回答は26.1%、「やりすぎ」との回答は1.1%であった。役職ごとと比較すると「当然」との回答は養護教諭が最も高率の68.6%であった。年代別で比較すると「当然」との回答は年齢が若いほど割合が高かった。

LGBT当事者に理解ある社会であるかについて、「やや思わない」との回答は53.6%、「思わない」との回答は32.1%であった。同性パートナー制度を認めるべきであるかについて、認めるべきだと「思う」との回答は44.4%、「やや思う」との回答は36.9%であった。一方、同性パートナーシップ制度を地元の自治体で開始することについて「どちらかといえば困難」との回答は50.7%、「困難」との回答は10.2%であった。同性婚を認めるべきかについて、認めるべきだと「思う」との回答は46.1%、「やや思う」との回答は38.9%であった。

LGBT当事者への生殖医療を認めるべきかについて、認めるべきだと「思う」との回答は38.8%、「やや思う」との回答は43.8%であった。LGBT当事者への養子縁組を拡大すべきかについて、拡大すべきと「思う」との回答は39.2%、「やや思う」との回答は45.2%であった。

学校で子どもに、仕事や家庭のことなどライフプランを立ててもらうことの必要性について、LGBT以外の子どもの場合、「必要」80.0%、「不要」

7.4%、「有害」0.3%であった。LGBTの子どもの場合「必要」81.6%、「不要」6.0%、「有害」0.1%であった。役職ごとで比較すると有意差は見られなかった。

学校で子どもに、仕事や家庭のことなどライフプランを立ててもらうことの難易度について、LGBT以外の子どもの場合、「容易」11.7%、「まあ容易」38.0%、「やや困難」28.0%、「困難」5.0%であった。LGBTの子どもの場合、「容易」3.4%、「まあ容易」19.2%、「やや困難」49.4%、「困難」10.5%であった。

LGBTの子どもが学校でライフプランを立てることが難しい理由の自由記述として、「LGBTについて社会の理解が進んでいないから」「教員の知識不足」「社会の制度や法がLGBTに対応していないから」「授業時間の確保が困難だから」との回答が多かった。

LGBTの子どもにライフプランを立ててもらうために必要と思うことについて、「子ども向けの本」62.0%、「保護者の理解」60.4%、「保護者向けの本」57.3%、「授業で使う教材」51.6%、「教員向けの指導案」51.5%であった。

D. 考察

文部科学省の通知の認知度は約6割と十分ではなかったが、通知を知っている教員は、性別違和感を持っている児童生徒の存在に気づきやすく、児童生徒の相談相手となっていた。文部科学省の通知についての啓発は必要であると考えられる。

多くの教員が自殺企図や自殺念慮、うつに関して医療施設と連携すべきであると回答していたが、医療施設との連携に困難さを感じていた。学校保健、医療が連携しやすい体制を作る必要がある。また、二次性徴抑制療法などの医療的支援への認知度は低く、教員には医療的支援への理解を深め、当事者や保護者への情報提供を行い、医療施設につなげる役割を担ってもらう必要がある。

学校における具体的対応、また、保護者への対

応などの中にも、教員が対応困難な内容が存在しており、LGBT、特に性同一性障害/性別違和に関する知識や経験を持つ医療・保健の専門家が関与して、ガイドラインやマニュアルを作成し、子どもと家族への支援、また、教職員への支援を行うことが重要である。

多くの教員が LGBT の児童・生徒の自殺企図や自殺念慮、うつに関して医療施設と連携すべきであると回答していたが、医療施設との連携に困難さを感じていた。一般教員がこのような問題で、相談相手として、また、支援を期待している存在として、養護教諭の役割は大きいと考えられた。

学校と医療が連携することで始まる二次性徴抑制療法は、自殺念慮や自殺未遂、不登校などの防止することにつながると考えられるが、教員の中には、知らない者、行ってほしくないと考える者も高率に見られた。医療的な知識を持って対応する養護教諭が説明できるための情報提供などが必要である。

全国の都道府県・政令指定都市教育委員会のうち、約 6 割が LGBT に特化した教員研修を行ったが、全教員のうち参加したのは平均 7%と非常に低率であったとされる。このように LGBT について関心のある教員や、人権教育担当や養護教諭といった既に LGBT と関わりの深い役職の教員しか参加しない状況が考えられる。ある程度の義務化を行う必要があると考えられ、また、私達の制作している教材も含めて、全教員がアクセスしやすく学習しやすい動画コンテンツや教員向けの本などが有用であると考えられる。

「LGBT の子どもがライフプランを立てることは必要である」と考える教員は高率であったが、同時に「困難」と考える教員も高率であった。NHK による 2015 年の調査結果によると、LGBT 当事者で「子どもがいる」との回答は 5.6%であり、「子どもがいない」と回答した中で「子どもが欲しい」との回答は半数以上であった。このように LGBT カップルは子どもを持つことを望む人も多く、生殖

医療を利用して子どもを得ようとする人も多いと考えられる。特にトランス女性の場合には、女性ホルモンを使用することで乏精子症になる可能性が高く、その前に精子の凍結保存が必要である。

LGBT の子どもにライフプランを立ててもらうために必要だと思うことについて、今回の調査では、LGBT に関する高い知識を持つ群では、知識が低い群と比較して「保護者の理解」「保護者向けの本」「世間の偏見がないこと」「校長の理解」「外部講師」「人権担当の教員の協力」「同性婚やパートナーシップ制度」「家庭科教員の協力」との回答は有意に高率であった。

LGBT の子どもも含めた子ども全体に、ライフプラン教育を行うためには、私達の制作したような本やマンガ冊子も含めた教材の提供が必要であると考えられるが、さらに保護者の理解や、多職種の連携も必要である。さらに今後は、日本社会の法や制度の整備も必要である。

E. 結論

LGBT、特に性同一性障害/性別違和当事者である子どもや家族、教職員が現在、抱えている課題を解決するためには、小児期～成人期に至る切れ目のない情報提供、多職種による医療保健体制を確立する必要がある。今回、明らかになった視点で、情報提供の内容、多職種による保健活動・医療のガイドラインやマニュアル作りを行うことが重要である。

LGBT、特に性同一性障害/性別違和当事者である子どもや家族、教職員が現在、課題を抱えている課題を解決するためには、小児期～成人期に至る切れ目のない情報提供、多職種による医療保健体制を確立する必要がある。重要な役割を担う養護教諭には、その特性を活かすことのできるデータを含む教材の提供が必要である。

性の多様性や LGBT に関する授業を行うことは、児童・生徒全体に正しい理解を促すだけでなく、

LGBT の子どもが教員等に相談できるよう促すことにもなるため重要である。また、今後はさらに進めて、LGBT の子どもがライフプランを立てることへの支援も重要である。

性の多様性に関する教育を始める時期は小学校の早期からが望ましいが、教員が今すぐに教育を始めるには知識や経験の不足によって難しい現状である。教員の知識を補うための教材の提供や専門家への相談ルートの整備が必要である。また、教員養成課程においても取り入れる必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

書籍・教科書

1. 中塚幹也 (監修) : 個「性」ってなんだろう?
中塚幹也 (監修), 東京都, あかね書房, 1-112, 2018.
2. 中塚幹也 : ライフプランを考えるあなたへ—まんがで読む—未来への選択肢<拡大版>.
岡山大学大学院保健学研究科編, 岡山市, 岡山大学大学院保健学研究科中塚研究室, 1-53, 2019.
3. 中塚幹也 : 第一章～思春期～ 8 同性愛、多様な性のあり方. 女と男のディクショナリー HUMAN+改訂第二版. 日本産科婦人科学会編, 神奈川県, 公益社団法人日本産科婦人科学会, P24, 2018
4. 中塚幹也 : 第一章～思春期～ 9 性同一性障害. 女と男のディクショナリー HUMAN+改訂第二版. 日本産科婦人科学会編, 神奈川県, 公益社団法人日本産科婦人科学会, P25, 2018.
5. 中塚幹也 : 2 章リプロダクティブヘルスに関する概念 2 節セクシュアリティとジェンダー. ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株) メディカ出版, 32-33, 2019.
6. 中塚幹也 : 2 章リプロダクティブヘルスに関する概念 4 節性分化疾患. ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株) メディカ出版, 36-36, 2019.
7. 中塚幹也 : 2 章リプロダクティブヘルスに関する概念 5 節性意識の発達. ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株) メディカ出版, 37-37, 2019.
8. 中塚幹也 : 2 章リプロダクティブヘルスに関する概念 6 節性同一性障害. ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株) メディカ出版, 38-41, 2019.
9. 中塚幹也 : 6 章生殖に関する生理 1 節女性の生殖器. ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株) メディカ出版, 98-102, 2019.
10. 中塚幹也 : 6 章生殖に関する生理 2 節男性の生殖器. ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株) メディカ出版, 102-103, 2019.
11. 中塚幹也 : 6 章生殖に関する生理 6 節性行動、性反応. ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株) メディカ出版, 114-118, 2019.
12. 中塚幹也 : 第 5 章性の多様性「1 性同一性障害」. 助産師基礎教育テキスト 2019 年版. 吉沢豊予子編, 東京都, 日本看護協会出版会, 208-220, 2019.
13. 中塚幹也 : 第 5 章性の多様性「2 性分化疾患」.

助産師基礎教育テキスト 2019 年版. 吉沢豊予子編, 東京都, 日本看護協会出版会, 221-230, 2019.

14. 中塚幹也: 第 5 章性の多様性「3 同性愛」. 助産師基礎教育テキスト 2019 年版. 吉沢豊予子編, 東京都, 日本看護協会出版会, 231-234, 2019.
15. 中塚幹也: 性分化疾患と性同一性障害. 今日の治療指針. 私はこう治療している 2019 年版 (Volume61). 福井次矢, 高木誠, 小室一成編, 医学書院, 東京都, 1310-1312, 2019.
16. 中塚幹也: 性分化疾患と性同一性障害. 今日の治療指針私はこう治療している 2019 年版 (ポケット判). 福井次矢, 高木誠, 小室一成編, 医学書院, 東京都, 1310-1312, 2019

論文発表

1. Shinohara Y, Nakatsuka M.: Descriptive Study of Gender Dysphoria in Japanese Individuals with Male-to-Female Gender Identity Disorder. *Acta Med Okayama* 72(2), 143-151, 2018.
2. 樫野千明, 瀬尾奏衣, 周宇, 新井富士美, 中塚幹也: “性同一性障害当事者における「特別養子縁組」や「生殖医療」により子どもを持つことへの意識”. *G I D (性同一性障害) 学会雑誌*. 11(1), 115-128, 2018.
3. 瀬尾奏衣, 周宇, 樫野千明, 新井富士美, 中塚幹也: ジェンダークリニックを受診する性同一性障害当事者における戸籍上の性別変更のための手術要件への意識. *G I D (性同一性障害) 学会雑誌*. 11(1), 129-144, 2018.
4. 周宇, 南原あかり, 樫野千明, 瀬尾奏衣, 中塚幹也: 高校生, 大学生における LGBT に関する知識と意識. *G I D (性同一性障害) 学会雑誌*. 11(1), 157-167, 2018.
5. 中塚幹也: 配偶子保存の必要性和課題: 配偶子凍結に伴う倫理的問題. *臨床婦人科産科*. 72(5), 424-428, 2018.
6. 中塚幹也: 新連載: 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「LGBT, トランスジェンダーって何?」. *臨床助産ケア*. 10(3), 82-85, 2018.
7. 中塚幹也: Special Report L G B T の基礎知識と性同一性障害診療の実際. *Schneller*. (107), 3-6, 2018.
8. 中塚幹也: 連載第 2 回: 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「子どもの頃の LGBT 当事者」. *臨床助産ケア*. 10(4), 72-75, 2018.
9. 中塚幹也: 性同一性障害への性別適合手術の保険適用の意義と今後の課題. *月刊保団連*. (1276), 39-43, 2018.
10. 中塚幹也: 連載第 3 回: 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「思春期の性同一性障害の子どもとホルモン療法」. *臨床助産ケア*. 10(5), 96-99, 2018.
11. 中塚幹也: 連載第 4 回: 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「性同一性障害診療における看護スタッフの役割」. *臨床助産ケア*. 10(6), 103-106, 2018.
12. 中塚幹也: “特集: 思春期にまつわる最近の話題 13. 思春期における性同一性障害”. *産科と婦人科*. 85(12), 1491-1495, 2018.
13. 中塚幹也: 連載第 5 回: 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「性同一性障害診療を行う外来の環境整備」. *臨床助産ケア*. 11(1), 100-104, 2019.
14. 中塚幹也: 連載第 6 回: 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「LGBT を性教育で取り上げる」. *臨床助産ケア*. 11(2), 76-80, 2019.
15. 中塚幹也: 性同一性障害に関する診療～保険収載時代への適合～. *日本産婦人科医会報*. 70(7), 10-11, 2018.
16. 中塚幹也: 文科省通知 (2015 年) に至るまで.

- G I D (性同一性障害) 学会雑誌. 11(1), 55-56, 2018.
17. 中塚幹也 : GID 学会の現在の課題と未来への展望. G I D (性同一性障害) 学会雑誌. 11(1), 71-74, 2018.
 18. 中塚幹也 : 性同一性障害 (GID) 診療を取り巻く最近の状況 - 専門知識を持っておこうと思う方へ. 日本女性医学学会ニューズレター. 24(2), 10, 2019.
 19. 中塚幹也 : 新時代のホルモン療法マニュアル 第 2 章各論 B 女性医学 7 性同一性障害 (GID). 産科と婦人科. 86 : 190-195, 2019.
 20. 中塚幹也 : 第三編研修における主な指導内容 第 10 章 今日的な教育課題 1 教育課題の解決に向けた取り組み ㉔性の多様性: LGBT の理解. 初任者研修実務必携追録第 10 号. 第一法規株式会社, 8925-8930, 2019.
 21. 中塚幹也 : 今日的な教育課題教育課題の解決に向けた取組 Q 性的マイノリティ (LGBT) の児童生徒を受け入れるためには、どのようなことに留意すればよいのでしょうか?. 初任者研修実務必携 Web. 初任者研修実務必携 Web. 第一法規株式会社, 2019.
 22. 中塚幹也 : 特集医療者のための LGBT/SOGI の基礎知識巻頭言. Modern Physician. 39 : 428-429, 2019.
 23. 中塚幹也 : <LGBT/SOGI の基礎知識>1LGBT, SOGI の中の「性同一性障害」とは. Modern Physician. 39 : 430-433, 2019.
 24. 中塚幹也 : <http://www.bosei-eisei.org/>. 日本母性衛生学会市民公開講座の動画配信. 2019.
 25. 中塚幹也 : <https://www.youtube.com/channel/UCq7TErhKAwQco51pbUTdGg>. 日本母性衛生学会多様性を認める社会、LGBT の基礎知識 (2018 年度市民公開講座一部抜粋). 2019.
 26. 中塚幹也 : 学科長インタビュー保健学科の魅力とは? ひとりの健康だけではなく社会とつながる保健学科の役割. 螢雪時代 6 月号付録. 89 : 15-17, 2019.
 27. 中塚幹也 : 連載第 7 回 : 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「LGBT の子どものライフプランへの支援: 結婚」. 臨床助産ケア. 11, 114-119, 2019.
 28. 司会 : 金子歩, 出席者 : 中塚幹也, 高橋裕子, 杉山綾野, 中村美亜 : 座談会「トランスジェンダーの現在」. アメリカ研究. アメリカ研究. 大阪 : アメリカ学会, 1-342019.
 29. 來田享子, 建石真公子 : 第 3 項トランスジェンダーの人々とその家族が抱える困難, 求められる対応 中塚幹也 (GID 学会理事長) への聞き取り調査結果を中心に. 平成 30 年度日本スポーツ協会スポーツ医・科学研究報告書 I スポーツ指導に必要な LGBT の人々への配慮に関する調査研究第 2 報. 平成 30 年度日本スポーツ協会スポーツ医・科学研究報告書 I スポーツ指導に必要な LGBT の人々への配慮に関する調査研究第 2 報. 東京 : 公益財団法人日本スポーツ協会, 58-622019.
 30. 中塚幹也 : トランスジェンダーの就労と職域における対応. 産業医学ジャーナル. 42 : 77-82, 2019.
 31. 中塚幹也 : Vi. Realizing a Symbiotic Society②Support for sexual minorities: Skill group formation project of the reproduction, pregnancy, child, care, LGBT . Selected cases in Okayama University to Promote SDGs. Selected cases in Okayama University to Promote SDGs. 岡山市 : 国立大学法人岡山大学, 117, 2019.
 32. 中塚幹也 : Vi. Realizing a Symbiotic Society②Support for sexual minorities: Domestic base construction for comprehensive treatment, research and

- education of GAD. Selected cases in Okayama University to Promote SDGs. Selected cases in Okayama University to Promote SDGs. 岡山市：国立大学法人岡山大学, 118, 2019.
33. 中塚幹也：Vi. Realizing a Symbiotic Society②Support for sexual minorities: Themul;tidisciplinary approach to fertility preservation for young cancerpatients with local medical network. Selected cases in Okayama University to Promote SDGs. Selected cases in Okayama University to Promote SDGs. 岡山市：国立大学法人岡山大学, 118, 2019.
 34. 中塚幹也：Vi. Realizing a Symbiotic Society②Support for sexual minorities: Training embryologists who will lead the world. Selected cases in Okayama University to Promote SDGs. Selected cases in Okayama University to Promote SDGs. 岡山市：国立大学法人岡山大学, 119, 2019.
 35. 中塚幹也：日本における性同一性障害当事者の課題. 女性心身医学. 24 : 45, 2019.
 36. 中塚幹也：性同一性障害と生殖医療：様々な「家族のカタチ」. 日本生殖内分泌学会雑誌. 24 : 31-34, 2019.
 37. 中塚幹也：2018年度奈良県大学人権教育研究協議会記念講演会「性同一性障害をめぐる諸問題と対応の課題」. 研究報告第14集. 研究報告第14集. 奈良市：奈良教育大学, 32 : 2-30, 2019.
 38. 中塚幹也：山口県小児科医会 2019年度定期総会特別講演 性同一性障害の子供への支援：小児科スタッフが知っておくべきこと. 山口県小児科医会ニュース. 14-15, 2019.
 39. 中塚幹也：連載第8回：助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「LGBT 当事者のライフプランへの支援：性同一性障害当事者が子どもを持つ」. 臨床助産ケア. 11:84-87, 2019.
 40. 中塚幹也：3章女性ヘルスケアに特異的な疾患と対応. 性同一性障害. 産婦人科臨床シリーズ6 女性ヘルスケア. 東京都：株式会社中山書店, 177-186, 2019.
 41. 中塚幹也：気になっているけど、聞けないこと。あるよね？体の性と心の性って違うの？. AKASHI School Uniform Campany., 2019.
 42. 中塚幹也：多様な性について考えよう. 株式会社明石スクールユニフォームカンパニー, 2019.
 43. 中塚幹也：性同一性障害. 日本産科婦人科学会雑. 71 : 2440-2443, 2019.
 44. 中塚幹也：2女性生殖器の疾患と看護13セクシュアリティに関連する課題. ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑨女性生殖器. 大阪市：メディカ出版, 310-321, 2020.
 45. 中塚幹也：連載第9回：助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「LGBT 当事者のライフプランへの支援：LGBT 当事者と家族形成」. 臨床助産ケア. 12 : 92-95, 2020.
 46. 中塚幹也：私の処方「性同一性障害のホルモン療法」. ModernPhysician. 40 : 169, 2020.
 47. 中塚幹也：診療の秘訣「性同一性障害」. ModernPhysician. 40 : 176, 2020.
 48. 中塚幹也：第5章性の多様性「1性同一性障害」. 助産師基礎教育テキスト2020年版. 日本看護協会出版会. 東京都：日本看護協会出版会, 208-220, 2020.
 49. 中塚幹也：第5章性の多様性「2性分化疾患」. 助産師基礎教育テキスト2020年版. 日本看護協会出版会. 東京都：日本看護協会出版会, 221-230, 2020.
 50. 中塚幹也：第5章性の多様性「3同性愛」. 助産師基礎教育テキスト2020年版. 日本看護

- 協会出版会．東京都：日本看護協会出版会，231-234，2020.
51. 中塚幹也：性同一性障害の子どもへの支援：小児科スタッフが知っておくべきこと．山口県小児科医会会報．31：14-16，2020.
 52. 中塚幹也：連携症例ファイル#20_性別違和とトランスガール．親子の心の診療に関する多職種連携マニュアル．福岡県：学校法人久留米大学，46-47，2020
 53. 中塚幹也：連載第10回(最終回)：助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「ライフプラン教育と LGBT の子ども」．臨床助産ケア．12：57-60，2020.
 54. 中塚幹也：特別報告：多様化する健康課題～性別違和感を持つ子供たち～「研究者の立場から」．日本健康相談活動学会誌．15：7-10，2020.
 55. 中塚幹也：ライフプランを考えるあなたへ-まんがで読む-未来への選択肢(改訂版)．岡山市：岡山大学大学院保健学研究科中塚研究室，1-41，2020.
 56. 中塚幹也：参考資料3. 団体ヒアリングメモ・団体提出資料3-2. GID(性同一性障害)学会ヒアリングメモ．令和元年度厚生労働省委託事業職場におけるダイバーシティ推進事業報告書．令和元年度厚生労働省委託事業職場におけるダイバーシティ推進事業報告書．東京都：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社，31-76，2020.
 57. 中塚幹也：特別報告：多様化する健康課題～性別違和感を持つ子供たち～「研究者の立場から」．日本健康相談活動学会誌．7-10，2020.
 58. 中塚幹也：ライフプランを考えるあなたへ-まんがで読む-未来への選択肢(改訂版)ライフプランを考えるあなたへ-まんがで読む-未来への選択肢<標準版>(改訂) pp. 1-44，2020.
 59. 中塚幹也：(6) 性同一性障害．産婦人科専門医のための必修知識 2020年度版．日本産科婦人科学会．杏林社，東京都，E25-E27，2020.
 60. 中塚幹也：16. LGBTQ+. 思春期のケア．89-93，2020.
 61. 樫野千明，細木菜々恵，周宇，中塚幹也：LGBT当事者への生殖医療の実態と意識：産婦人科施設代表者への全国調査から．GID学会雑誌13：15-29，2020.
 62. 周宇，松本梓，樫野千明，中塚幹也：自治体職員における「LGBT関連の施策」への意識．GID学会雑誌13：31-41，2020.
 63. 周宇，松本梓，樫野千明，中塚幹也：自治体職員の職場におけるLGBT(性的マイノリティ)当事者への意識と対応．GID学会雑誌13：43-53，2020.
 64. 関明穂，鈴木久雄，中塚幹也：マラソン大会におけるトランスジェンダーの参加カテゴリー～大会主催者による競技の公平性と性自認の尊重のバランス～. GID学会雑誌13:55-62，2020.
 65. 周宇，安間友美，樫野千明，中塚幹也：大学におけるLGBT当事者支援に対する大学生の意識とカミングアウトされた時の気持ちや行動. GID学会雑誌13：75-88，2020.
 66. 江口珠美，中塚幹也：性同一性障害当事者における医療機関での工夫．GID学会雑誌13：89-96，2020.
 67. 中塚幹也：No. 2-1 LGBTと自殺、社会的養護、家族形成：はじめに．保健指導リソースガイドWEB版，2020．<http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/opinion/015/004/-no1-3.php>
 68. 中塚幹也：No. 2-2 LGBTと自殺、社会的養護、家族形成：自殺への対策．保健指導リソースガイドWEB版，2020．<http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/opinion/015/004/-no1-4.php>
 69. 中塚幹也：No. 2-3 LGBTと自殺、社会的養護、家族形成：児童養護施設での対応．保健指導

リソースガイド WEB 版 , 2020 .
<http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/opinion/015/004/-no1-5.php>

70. 中塚幹也 : No. 2-4 LGBT と自殺、社会的養護、家族形成 : 里子・里親、特別養子縁組. 保健指導リソースガイド WEB 版 , 2020 .
<http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/opinion/015/004/-no1-6.php>
71. 中塚幹也 : No. 2-5 LGBT と自殺、社会的養護、家族形成 : 第三者の関与する生殖医療. 保健指導リソースガイド WEB 版 , 2020 .
<http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/opinion/015/004/-no1-7.php>
72. 中塚幹也 : No. 2-6 LGBT と自殺、社会的養護、家族形成 : ライフプランを持つには. 保健指導リソースガイド WEB 版 , 2020 .
<http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/opinion/015/004/-no1-8.php>

2. 学会発表

1. 中塚幹也 : <シンポジウム> 「性同一性障害診療を取り巻く課題と今後の展望」第 114 回 日本精神神経学会 委員会シンポジウム 12 性同一性障害 / 性別違和をめぐる最近の動向 ~ 歴史的な変遷を踏まえて ~. 平成 30 年 6 月 21 ~ 23 日. 神戸国際会議場 / 神戸国際展示場 / 神戸ポートピアホテル.
2. 中塚幹也 : <理事長講演> 「GID 学会の現況と提言」GID (性同一性障害) 学会第 2 1 回研究大会. 平成 31 年 3 月 23 ~ 24 日. 岡山県医師会館
3. 中塚幹也 : <講演> 「性別適合手術の保険適用 : 安全性と有効性の担保に向けての取り組み」第 61 回日本形成外科学会総会・学術集会 特別パネルディスカッション 4 性別適合手術に対する保険適用—これまでの流れと今後の課題—. 平成 30 年 4 月 11 ~ 13 日. ホテルニューオータニ博多・電気ビル (共創館・本館).
4. 中塚幹也 : <講演> 「性別適合手術の保険適用と性同一性障害特例法の現状と課題について」LGBT (性的少数者) に関する課題を考える議員連盟 総会. 平成 30 年 4 月 20 日. 衆議院第 1 議員会館
5. 中塚幹也 : <講演> 「LGBT の基礎知識と職場での課題」. 第 91 回日本産業衛生学会 教育講演 5. 平成 30 年 5 月 16 ~ 19 日. 熊本市市民会館 1F 大ホール.
6. 中塚幹也 : <講演> 「LGBT の基礎と学校における子どもへの対応」. 平成 30 年度中国地区学校保健・学校医大会. 平成 30 年 8 月 19 日. 島根県松江市 サンラポーむらくも.
7. 中塚幹也 : <講演> 「LGBT の理解と支援について」. 平成 30 年度 三原市学校保健会総会. 平成 30 年 8 月 24 日. 三原市役所城町庁舎.
8. 中塚幹也 : <講演> 「LGBT の基礎知識と医療的支援」. 第 49 回日本看護学会—ヘルスプロモーション—学術集会 ランチタイムミニレクチャー. 平成 30 年 9 月 20 日. 岡山コンベンションセンター.
9. 中塚幹也 : <講演> 「LGBT の基礎知識と医療の実際」. 第 59 回日本母性衛生学会 教育講演 1. 平成 30 年 10 月 19 ~ 20 日. 新潟コンベンションセンター (朱鷺メッセ).
10. 中塚幹也 : <講演> 「LGBT の基礎知識と性同一性障害診療の実際」. 平成 30 年度 香川県医学会. 平成 30 年 10 月 21 日. 香川県善通寺市市民会館.
11. 中塚幹也 : <講演> 「LGBT を理解し伝えるために」岡山県中学校教育研究会 人権教育部会 第 33 回 研究発表大会. 平成 30 年 11 月 9

- 日．建部町文化センター．
12. 中塚幹也：〈講演〉「LGBT 当事者と「生殖医療で子どもを持つこと」全国調査 2016, および, 性同一性障害当事者への調査から」．岡山大学大学院保健学研究科 第 10 回 生と死の倫理シンポジウム 様々な家族のカタチ 「LGBT と家族形成」．平成 30 年 12 月 22 日．岡山大学鹿田キャンパス 臨床第 1 講義室
 13. 新井富士美、中塚幹也：〈一般演題〉「思春期の性同一性障害当事者に対する二次性徴抑制療法と反対の性ホルモン治療」第 70 回日本産科婦人科学会．平成 30 年 5 月 10～13 日．仙台国際センター
 14. 服部瑠衣, 石岡洋子, 片岡久美恵, 中塚幹也：〈一般演題〉「学校における性同一性障害の子どもへの対応と医療との連携」．第 59 回日本母性衛生学会．平成 30 年 10 月 19～20 日．新潟コンベンションセンター（朱鷺メッセ）．
 15. 瀬尾奏衣, 広保沙紀, 平千紘, 安村朋姫, 舟田瑞希, 山本友里恵, 石岡洋子, 片岡久美恵, 中塚幹也：〈一般演題〉「性同一性障害当事者における「特別養子縁組」や「生殖医療」により子どもを持つことへの意識」．第 59 回日本母性衛生学会．平成 30 年 19～20 日．新潟コンベンションセンター（朱鷺メッセ）．
 16. 南原あかり, 細木菜々恵, 田崎史子, 片岡麻美, 千葉智美, 為定春奈, 中塚幹也：〈一般演題〉「LGBT に関する高校生, 大学生の知識と意識」 第 59 回日本母性衛生学会．平成 30 年 10 月 19～20 日．新潟コンベンションセンター（朱鷺メッセ）．
 17. 細木菜々恵, 田崎史子, 為定春奈, 片岡麻美, 南原あかり, 千葉智美, 中塚幹也：〈一般演題〉「卵子提供により子どもを持つこと」に対する大学生の意識」．第 59 回日本母性衛生学会．平成 30 年 10 月 19～20 日．新潟コンベンションセンター（朱鷺メッセ）．
 18. 須崎かな, 難波瑞穂, 高橋麻友, 東田明日香, 中塚幹也：〈一般演題〉「性の多様性と家族形成への意識」．岡山県母性衛生学会．平成 30 年 10 月 27 日．岡山県看護会館
 19. 難波瑞穂, 須崎かな, 高橋麻友, 東田明日香, 中塚幹也：〈一般演題〉「トランスジェンダー当事者の部活動またはサークル活動」に対する大学生の意識」．岡山県母性衛生学会．平成 30 年 10 月 27 日．岡山県看護会館．
 20. 中塚幹也：〈パネルディスカッション〉「多様な性を認め合う社会を実現するために今私たちができることとは？」．岡山弁護士会 2019 年度 憲法記念県民集会「知ってる？ LGBT 多様な性を認め合う社会を目指して」．令和 1 年 5 月 11 日～令和 1 年 5 月 11 日．山陽新聞社本社ビル 1 階 さん太ホール．
 21. 中塚幹也：〈講演〉「LGBT の基礎知識と学校における子どもへの対応」．安佐学校保健会総会．令和 1 年 5 月 23 日～令和 1 年 5 月 23 日．安佐医師会館．
 22. 中塚幹也：〈講演〉「性教育で知っておくべき LGBTQ の基礎知識」．2019 年度 岡山 SRH 研究会セミナー「性教育で知っておくべき新しい知識」．令和 1 年 5 月 26 日～令和 1 年 5 月 26 日．岡山中央病院 セミナー室．
 23. 中塚幹也：〈講演〉「生と性のつながり：その多様性」．中国学園大学 中国学園短期大学性教育講演会．令和 1 年 6 月 12 日～令和 1 年 6 月 12 日．中国学園大学 中国学園短期大学．
 24. 中塚幹也：〈講演〉「トランスジェンダー/性同一性障害(性別不合)」．厚労科学研究 日本版 Bright Futures 第 1 回班会議．令和 1 年 6 月 16 日～令和 1 年 6 月 16 日．東京大学医学部附属病院．
 25. 中塚幹也：〈講演〉「LGBT の基礎知識：トランスジェンダーの子どもへの対応」．静岡県田方地区学校保健会総会．令和 1 年 6 月 20 日～令和 1 年 6 月 20 日．田方教育会館．

26. 中塚幹也：〈講演〉「LGBTとは？私たちにできること」。倉敷市男女共同参画センター講演会。令和1年6月22日～令和1年6月22日。倉敷市男女共同参画推進センター
27. Mikiya Nakatsuka：〈講演〉「Situations surrounding transgenders in Japan」。第29回日本女性心身医学会研修会 日韓合同企画：JSPOG-KSPOG Joint Symposium。令和1年6月29日～令和1年6月30日。杏林大学 井の頭キャンパス。
28. 中塚幹也：〈講演〉「LGBTの基礎と医療施設での対応」。香川県立中央病院 職員研修会 臨床倫理研修。令和1年7月5日～令和1年7月5日。香川県立中央病院。
29. 中塚幹也：〈講演〉「性同一性障害の子どもへの支援：小児科スタッフが知っておくべきこと」。日本小児科学会山口地方会・山口県小児科医会合同総会・特別講演。令和1年8月4日～令和1年8月4日。ANAクラウンプラザホテル宇部。
30. 中塚幹也：〈講演〉「LGBTの基礎知識と企業が考えること」。岡山県産業保健総合支援センター 産業保健研修会。令和1年8月22日～令和1年8月22日。岡山県産業保健総合支援センター。
31. 中塚幹也：〈講演〉「「性別違和」のある児童生徒への支援」。京都府総合教育センター 人権教育講座Ⅰ。令和1年8月23日～令和1年8月23日。京都府総合教育センター。
32. 中塚幹也：〈講演〉「LGBT/SOGIの基礎知識：地域や学校における対応と医療との連携」。高知県 思春期保健に関わる支援者等研修会。令和1年9月5日～令和1年9月5日。高知県立塩見記念青少年プラザ。
33. 中塚幹也：〈講演〉「性同一性障害診療の実際と産婦人科医」。第20回日本内分泌学会中国支部学術集会・JES We Can (男女共同参画推進委員会) 共同企画 パネルディスカッション 「トランスジェンダーと内分泌」。令和1年9月7日～令和1年9月7日。岡山国際交流センター。
34. 中塚幹也：〈講演〉「LGBTの基礎と病院での対応」。医療法人社団清和会 笠岡第一病院 倫理研修会。令和1年9月11日～令和1年9月11日。医療法人社団清和会 笠岡第一病院。
35. 中塚幹也：〈講演〉「GID(性同一性障害)学会の活動～トランスジェンダーと就労の課題：自治体・企業のできること～」。2019年度厚生労働省委託事業 職場におけるダイバーシティ推進事業 ヒアリング。令和1年9月19日～令和1年9月19日。ビジョンセンター東京駅前。
36. 中塚幹也：〈講演〉「LGBT/SOGI：大学ができること」。大阪大学 SOGI セミナー「あなたもその一人 多様性を受け入れるとは」～個性を発揮し一人ひとりが活躍できる大学に～。令和1年9月26日～令和1年9月26日。大阪大学コンベンションセンター。
37. 中塚幹也：〈講演〉「LGBTについて理解を深める～学校としてすべきこと～」。令和元年度 静岡県高等学校・特別支援学校保健主事研修会。令和1年9月27日～令和1年9月27日。総合教育センター あすなる。
38. 中塚幹也：〈講演〉「性教育の中で伝えること：ライフプランや性の多様性など新たな課題に対応するには」。兵庫県 性に関する指導・エイズ教育研修会。令和1年9月28日～令和1年9月28日。兵庫県県民会館。
39. 中塚幹也：〈講演〉「性別違和の身体的治療やその問題点、家族」。GID(性同一性障害)学会 第11回エキスパート研修会。令和1年10月5日～令和1年10月5日。鹿児島市医師会館 大会議室。
40. 中塚幹也：〈講演〉「第2部：LGBT/SOGIの基礎知識」。宮崎県人権啓発活動協働推進事業 宮崎産業経営大学法学部人権講座「セクシャ

- ル・マイノリティの人権について考える」. 令和1年10月5日～令和1年10月5日. 宮崎産業経営大学.
41. 中塚幹也：〈講演〉「第3部：LGBTを取り巻く社会の課題」. 宮崎県人権啓発活動協働推進事業 宮崎産業経営大学法学部人権講座「セクシャル・マイノリティの人権について考える」. 令和1年10月5日～令和1年10月5日. 宮崎産業経営大学.
 42. 千葉智美, 細木菜々恵, 石岡洋子, 片岡久美恵, 中塚幹也：〈一般演題〉「トランスジェンダー当事者の部活動またはサークル活動」に対する大学生の意識」. 第60回日本母性衛生学会総会・学術集会. 令和1年10月12日～令和1年10月13日. ヒルトン東京ベイ.
 43. 千葉智美, 細木菜々恵, 石岡洋子, 片岡久美恵, 中塚幹也：〈一般演題〉「大学生における「性の多様性」「LGBT 家族形成」への意識」. 第60回日本母性衛生学会総会・学術集会. 令和1年10月12日～令和1年10月13日. ヒルトン東京ベイ.
 44. 細木菜々恵, 千葉智美, 長谷部薫, 高田茉奈, 高野みのり, 石岡洋子, 片岡久美恵, 中塚幹也：〈一般演題〉「LGBT 当事者が生殖医療で子どもを持つことへの意識：産婦人科施設代表者への全国調査から」. 第60回日本母性衛生学会総会・学術集会. 令和1年10月12日～令和1年10月13日. ヒルトン東京ベイ.
 45. 中塚幹也：〈講演〉「LGBT と生殖医療」. 生殖医療サポーターの会 OKAYAMA 第124回 定期ミーティング. 令和1年10月17日～令和1年10月17日. 岡山大学医学部保健学科.
 46. 中塚幹也：〈講演〉「「生殖・妊娠・子育て・LGBT」関連の技能集団形成プロジェクト」. 岡山大学創立70周年記念事業企画・ホームカミングデイ 2019 in 鹿田 岡山大学大学院保健学研究科オープンフォーラム 2019. 令和1年10月26日～令和1年10月26日. 岡山大学Jホール.
 47. 中塚幹也：〈講演〉「LGBT の基礎知識と子どもへの対応」. 令和元年度 香川県 LGBT 等に関する教職員研修会. 令和1年10月29日～令和1年10月29日. サンポートホール高松.
 48. 中塚幹也：〈講演〉「性教育で何を話すのか?」. 「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム 19 第25日「性教育」を創る」. 令和1年11月7日～令和1年11月7日. 岡山大学医学部保健学科.
 49. 中塚幹也：〈シンポジウム〉「性同一性障害/性別違和/性別不合と家族形成：結婚子どもそしてライフプラン」. 第64回日本生殖医学会学術講演会. 令和1年11月7日～令和1年11月8日. 神戸国際会議場, 神戸国際展示場.
 50. 中塚幹也：〈講演〉「自治体職員が知っておきたい LGBT の基礎知識」. 岡山市職員研修会 LGBT 支援者（アライ）の見える化のための研修. 令和1年11月12日～令和1年11月12日. 岡山市勤労者福祉センター.
 51. 中塚幹也：〈講演〉「自治体職員が知っておきたい LGBT の基礎知識」. 岡山市職員研修会 LGBT 支援者（アライ）の見える化のための研修. 令和1年11月13日～令和1年11月13日. 岡山市勤労者福祉センター.
 52. 中塚幹也：〈講演〉「LGBT/SOGI の基礎知識：トランスジェンダーの子どもへの対応」. 第44回 東日本小児科学会. ～. 都市センターホテル
 53. 中塚幹也：〈講演〉「トランスジェンダーの子どもの封じ込める体験と学校での対応」. 教育現場をサポートする LGBT 関連セミナー in 岡山. 令和1年12月5日～令和1年12月5日. 岡山コンベンションセンター.
 54. 中塚幹也：LGBT/SOGIと医療. 第13回日本性差医学・医療学会
 55. 中塚幹也：卵子凍結・提供への意識と実態に関する全国調査報告：特にLGBT当事者の生殖

- 医療について. 第24回岡山生命倫理研究会
56. 中正 成美, 守谷 菜月, 藤井 彩, 石岡 洋子, 片岡 久美恵, 中塚 幹也:大学におけるLGBT当事者への支援」及びカミングアウトされた時の「アウティング」に対する大学生の意識. 第61回日本母性衛生学会総会・学術集会
57. 近藤穂奈美, 山下華奈, 藤井美空, 中川百子,
58. 石岡洋子, 片岡久美恵, 中塚幹也:自治体職員におけるLGBTに関する知識と意識. 第61回日本母性衛生学会総会・学術集会
59. 高田茉奈, 細木菜々恵, 高野みのり, 千葉智美, 辻祥子, 長谷部馨, 石岡洋子, 片岡久美恵, 中塚幹也: LGBT当事者の生殖医療の利用, 養子・里子による家族形成についての一般市民の意識. 第61回日本母性衛生学会総会・学術集会
60. 中塚幹也:トピック4:LGBTを理解する. 日本小児科医会 第22回「子どもの心」研修会
61. 中塚幹也:トピック 5:LGBTの子どもとその対応. 日本小児科医会 第22回「子どもの心」研修会
- G. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)
1. 特許取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他
なし